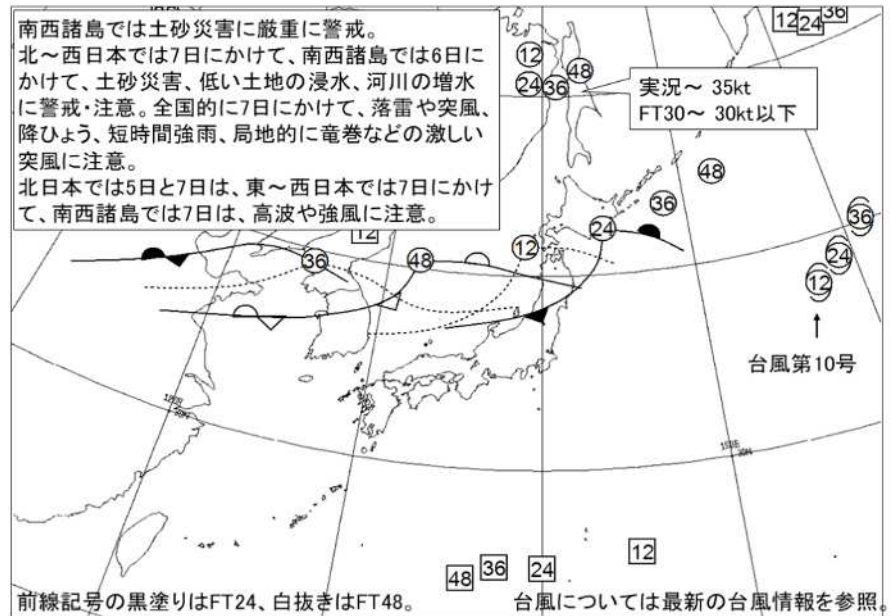


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5940m以上の高度場に対応した高気圧が南鳥島近海にあって西に移動、西～東日本はこの高気圧に覆われている。4日21時の館野の高層観測では850hPa 25℃を観測。

② ①の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、沖縄近海では雷を検知し、沖縄県国頭では2時までの1時間に63.5mmの非常に激しい雨を観測した。

③ 500hPa 5820m付近のトラフに対応して、前線を伴う低気圧が日本海を東北東進。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、日本海で雷を検知、非常に激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の高気圧は、7日にかけて小笠原近海から日本の南に中心を移す。北日本では5日は、西～東日本では7日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、日中の昇温や南海上からの下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って非常に激しい雨の降り、大雨となる所がある。南西諸島では5日は土砂災害に厳重に警戒し、6日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に警戒・注意し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項③の低気圧は、5日夜にかけて北海道付近へ進む。また5日夜には、500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して別の前線が華北～朝鮮半島付近にのび、6日朝には前線上の朝鮮半島付近に低気圧が発生する。低気圧は7日には北海道付近に進み、7日は前線が本州を南下する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、北～東日本の日本海側を中心に、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。北～東日本では7日にかけて、西日本では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に警戒・注意し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、2項①の高気圧と前線や低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では5日と7日は、東～西日本では7日にかけて、南西諸島では7日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ① 雨量(06時からの24時間)：東北・北陸120mm。② 波浪(明日まで)：北陸・中国3m。③ 高潮(明日まで)：東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。